

# 国際協働としての技術移転の参加体験型カリキュラムの改善

石井 皓 樋口 茂生 石橋 雅之 稲生 義彦 鈴木 将夫

## 1 研究目的

当センター及び県内自治体で実施している参加体験型の市民騒音調査の考え方及び手法を国際的な調査方法として確立し、県内外の騒音環境の整備に資する。

## 2 研究方法

当年度の計画は技術移転として、騒音環境の質の分析となるノイズ・クライテリア評価を中心テーマとして設定した。年度計画は次のとおりである。

2002年度；感性量の数量化

2003年度；ノイズ・クライテリア評価

2004年度；国際的技術移転の手法改善

## 3 研究結果

この国際協力は国際協力機構（JICA）の草の根型（地域提案型）研修に平成13年度に応募し、採用となり実施することとなった。このコースは、第1年度をアセアン5カ国、第2年度をメキシコ、第3年度をベトナムと設定した。当年度の履修内容と研修日程を次の表とした。

表1 研修日程

週	内容
1	来日，オリエンテーション
2	千葉へ移動，ナショナルレポート準備
3	ナショナルレポート，騒音基礎学習
4	騒音測定実習，解析
5	同上
6	振動測定実習，解析
7	同上
8	ノイズクライテリア
9	同上
10	音の環境教育，レポート作成
11	まとめ

JICAにおけるオリエンテーション時にインタビューを行い、研修員の学習履歴と学習体験を確認し、当センター職員との円滑な人間関係の醸成に効果的な研修員出身国の産業・文化などのキーワードを調査し、ナショナルレポートの素材を整理するこ

とを促した。

騒音振動の基礎的学習では参加体験型の教材を用意した。たとえば、周波数と波長の関係は「空気の振動を捕らえる管」を用いた。ノイズクライテリア評価実習を、11月28日に千葉都市モノレールをはじめとして交通機関の車内騒音の評価として実施した。下図は千葉都市モノレールの分析例のひとつである。

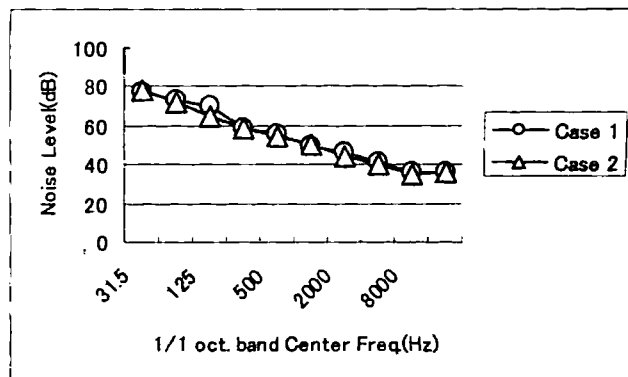


図1 ノイズクライテリアの一例

自動車騒音測定の実習は市川市妙典地区で沿道の固定測定地点の騒音レベルの経時変動を基礎に移動測定地点の騒音レベルを基準化する方法から同地域の騒音分布を求めた。

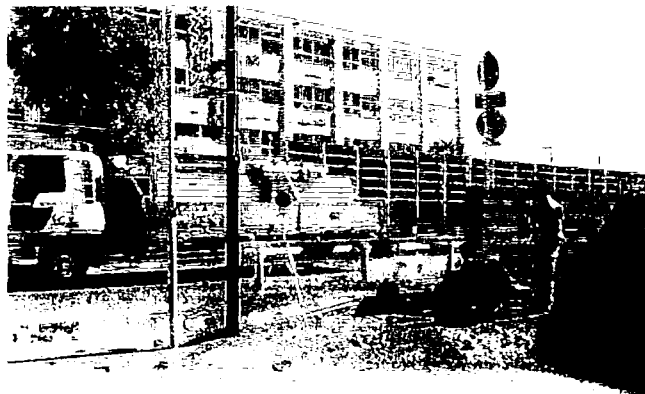


写真1 固定測定地点の測定風景，後方は市川市職員

第3年度はこれらの成果から国際的技術移転の改善に焦点をあてた研究を予定している。